

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)					
※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先:虎ノ門事務室[メールまたは電話])					
※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。					
科 目 名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
テック系スタートアップ要論		Z 169	1 単位	1 学期	ハイフレックス
Essentials of Deep Tech Startups					
科 目 分 野		課 程 領 域			
技術経営		イノベーションマネジメント共通科目			
担 当 教 員 名	メールアドレス		連絡方法 / オフィスアワー		
高橋真木子	-		メールアポイントにて随時		
関 連 し て い る 科 目 (履修推奨科目)					
産学連携・技術移転特論		テック系スタートアップ特論		アントレプレナーシップ特論	
技術経営要論					
授 業 の 概 要 と 到 達 目 標					
授業の主題と概要					
本講義は、2026年度から始まる政府の第7期科学技術基本計画で最も重視されているテック系スタートアップ(SU)について、実情把握と課題の俯瞰を通じ、SUの創出・成長・出口までの一連のプロセスを理解することを目指す。先端科学技術成果の知財化、技術をコアとした事業化は、既存マーケットが存在しないため難易度が高く、成功すれば破壊的なイノベーションをもたらす一方、その成功確率は極めて低いとされている。本講義では、第一線の現場で活躍するベンチャーキャピタル(VC)、公認会計士の講師とともに、実情とその課題、国内状況・国際状況の把握とともに、とりわけ本学受講生が(MBAの方にも)興味がある昨今のVCのトレンドについての概観する。本講義と対をなす2期のテック系スタートアップ特論では分野ごとの事例を深掘りする。いずれも知財の初学者でも受講可能である。 講師や受講生との議論を通じ、上記についての全体概要把握を目標とする。					
以下の項目について、実際の業務イメージをもち、全体感と必要な視点を理解することを目指す。					
1)テック系スタートアップ、特に大学発のディープテック系スタートアップの成長プロセスとベンチャーキャピタルの活動					
2)先端科学技術の知財化のポイント					
受講対象者					
企業の経営企画部、事業部、研究開発部門などにおいて、1)大学や研究機関、病院などとの外部連携に携わる方、新規事業開発やCVC、スタートアップとの連携に携わる方、知的財産部でそれらに携わる方。また、2)大学知財部、TLO等、研究機関において知的財産マネジメント、研究企画、戦略策定を担当するコーディネーター、リサーチアドミニストレーター等、関連業務に関わる方。もしくは、3)将来的にこれらの業務を目指す方。					
履 修 上 の 注 意 事 項 や ア ド バ イ ス					
※ 本科目は、2コマ連続で全4回の講義となる。開講日時に注意すること(合計8コマ)。					
※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。					
※ 担当する教員は実務家教員とする。					
※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。					
コンピテンシ修得目標					
知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1:	基盤法令・テクノロジー	Z1:	問題発見力	○	X1: 企画
Y2:	応用法令・実務・テクノロジー	Z2:	独創力		X2: 構想
Y3:	グローバル法令・実務	Z3:	問題解決力	○	X3: 調査・分析
Y4:	マネジメント	Z4:	プレゼンテーション力		X4: 設計・開発
Y5:	戦略立案	Z5:	変革推進力		X5: 変革
Y6:	標準化	Z6:	コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用
		Z7:	リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証
		Z8:	ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド
		Z9:	オーナーシップ力		X9: ライフサイクル
ブラクティカム					
イベント / ケース		教育技法		マテリアル / ツール	
1	講義				
2	グループ学習、ディスカッション				
評 価 の 方 法					
(総合評価項目と割合)		評 価 の 要 点			
平常点(出席含む)	50%	毎回、事務室より出席簿を準備する。平常点には、授業内での的確な質疑応答の内容を評価する。グループ討議、リアクションペーパーでは授業の理解度を講義の進行に合わせ、確認していく。			
グループ討議、レポート	50%				
合計	100%				

テキスト・参考図書など		備 考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	テキストに該当する資料は、毎回授業時に配布する。	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	1)イノベーション具現化のススメ-イノベーション具現化のための知財、投資、出口の3つの戦略- 瀬戸ほか著(知の商業化を技術に閉じず、具体的な価値に転換するための実践的戦略を紹介、講師江戸川氏の共著) 2)ディープテック・スタートアップの知財・契約戦略 柿沼太一編(実務・戦略立案者向け) 3)スタートアップの知財戦略―事業成長のための知財活用と戦略法務 山本飛翔(主要概念、実例ベースで法務実務との接続する)	
参 考 U R L		
適宜紹介予定		

コマ、日	学 習 内 容 ()内は各国の学習目標		各講義の位置付け	担当者	時間
1, 2	イントロで本科目全体の構成の説明、簡単な質問形式での受講生のニーズを把握。その後、前半は、大学における知財マネジメントとSUへの展開：技術を創出する源泉の大学の研究活動、成果の知財化について、長く大学TLOのトップを担った伊藤氏に自身の実践経験を含めてお話しいただく。後半は、それを踏まえ、改めて、SUをとりまく国内外の状況、日本の関連政策レベルのマクロの理解に加え、リアルな現場でそれら事業を使うユーザーの観点での情報収集の方法などの実務レベルのニーズにも対応する。		大学発のDeeptech系SUには必須の知財マネジメントの基本と概要を把握する。講義の土台となるSUエコシステムの全体像について一定の理解を得る。	高橋	90分×2コマ
	イベント	ゲスト講師：文部科学省NISTEP伊藤伸氏			
3, 4	ベンチャーファイナンスの概要と大学VCの特徴：初期のSUの成長には投資が必須であるが、特にテック系SUの初期の評価は難易度が高い。ベンチャーキャピタル(VC)からみた技術の事業化を、現在日本でもっとも成功している大学VCのパートナー井出氏より、ベンチャーファイナンスの概要、現在の動向、大学VCの特徴、先端技術の事業化の全体像と課題を、アメリカでの経営コンサルティング、ベンチャー企業経営への参画のご経験を含めて伺う。同氏作成のVC養成講座で使われているケースワークも行う。		VCの活動全般についての概観を理解する。VCファイナンス協会養成講座のコンテンツのポイントをご講義いただく。合わせて事業戦略に関する基本的な知見を得る。	高橋	90分×2コマ
	イベント	ゲスト講師：UTEC(東大エッジキャピタル)パートナー 井出 啓介氏			
5, 6	公認会計士からみたDeeptech 系SUの経営：大学発のいわゆるDeepTech系SUの特徴、先端技術の事業化におけるファイナンスの課題を、多くのTech系SUの株式上場を手がけ、事業計画の立案、資金調達や企業間アライアンスの推進および管理業務の整備等についてアドバイスしているご経験を踏まえて伺う。江戸川氏は参考図書1)の共著者でもある。適宜参考にされたい。		Deeptech系SUはその初期には特にファイナンスが非常に重要となる。その要諦を理解し、全体感を把握するとともに、VCのビジネスモデルについても概要を把握する。	高橋	90分×2コマ
	イベント	ゲスト講師：江戸川公認会計士事務所 江戸川 泰路氏			
7, 8	ベンチャー活用のエコシステム：現在の日本の技術系SUの概観理解と課題を踏まえ、改めて各々の立場からみたSUとの連携のあり方を検討する。また現在のアメリカ、シリコンバレーの強さの源泉といわれる、大学を核とした経済促進システム(ベンチャー創出支援インフラとしての大学の役割と可能性、科学技術政策との関係性など)も含めて理解する。		ケース教材を用いたグループワークを通じ、本科目で得た知見の総括と、立ち位置の異なる受講生同士の視点の相違を共有し、理解を深化させる。	高橋	90分×2コマ
	イベント	講義、miniグループ討議			

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。